

081

contents

クロード・モネ展
年間スケジュール

天花

TENGE



クロード・モネ「エプト川のボート遊び」1890年、サンパウロ美術館
© Museu de Arte de São Paulo Assis Chateaubriand / photo: Luiz Hossaka

CLAUDE MONET

クロード・モネ展

7/5^{thu} ~ 9/30^{sun} [会期中無休]

開館時間：午前9時～午後6時（入館は5時30分まで）

一般1200円 前売券および20名以上の団体は900円

70歳以上と18歳以下、および高等学校、盲・聾・養護学校に在学される方は無料

（きらら博入場券持参者は1回に限り900円）

【主催】山口県立美術館・読売新聞西部本社・NHK山口放送局・NHKちゅうごくソフトプラン・KRY山口放送・山口市・財団法人山口教育財団

【後援】フランス大使館・FBS福岡放送・広島テレビ・山口県PTA連合会・山口県公立高等学校PTA連合会・山口県私立中学高等学校PTA連合会

【協力】日本航空・JR西日本

【協賛】山口セキスイハイム(株)・(株)NTTドコモ中国・中国電力(株)

【企画協力】浅野研究所

前売券はローソンチケット、チケットぴあ、および県内各プレイガイド等でお求めください。

表紙作品解説

クロード・モネ（1840-1926）「エプト川のボート遊び」133×145cm 1890年
サン・パウロ美術館 Museu de Arte de São Paulo Assis Chateaubriand, São Paulo, Brasil

暗い水面に浮かぶ目にも鮮やかな赤いボート。その上に乗っている女性の白いドレス。明暗の対比がとても印象的なこの作品に描かれたふたりの女性は、当時モネと一緒に住んでいたアリス・オシュデという女性の娘ブランシュとシュザンヌであると言われています。長いオールを握ってこちらを見ているのがブランシュです。

カタログレゾネで調べてみると、この絵は1890年に描かれたことになっています。そうだとすると、当時ブランシュは25歳、シュザンヌは22歳。モネは1892年にアリスと結婚し、彼女たちはモネの義理の娘となります。

モネは、友人の批評家ジェフロワに宛てた1890年6月22日付けの手紙で以下のように述べています。「またしても不可能なものに取りかかってしまいました。底に水草の揺れている水、見るには素晴らしいが、これを描こうとすれば気も狂わんばかりです。それでも私はいつもこうしたものと格闘しているのです」。暗い水面下に見える水草を描こうとしたかのようなこの作品は、モネが手紙で吐露したような絵画的関心との関係で考えられることが多いようです。

（斎藤）

■講演会

いずれも山口県立山口図書館レクチャールームにて

1 7月8日(日)午後4時～5時30分

「モネの絵画と自然」

講師：六人部昭典氏（大手前大学助教授）

2 8月12日(日)午後2時～3時30分

「日本美術応援団『モネは日本美術だ!?!』」

講師：赤瀬川原平氏（画家・作家）+山下裕二氏（明治学院大学教授）

3 9月9日(日)午後2時～3時30分

「近代美術の流れと印象派」

講師：高階秀爾氏（東京大学名誉教授）

※聴講無料。聴講希望者は、往復ハガキに住所・氏名（団体の場合代表者名と人数）・

電話番号・希望日時と講演名を明記の上、美術館あてに申し込んでください。

先着順で定員250名に至り次第締め切らせていただきます。



ヴェットウイユ、朝 1901年 リール美術館（8月27日まで）
©Lille, Palais des Beaux-Arts

CLAUDE MONET

今なお、印象派の巨匠として人気の高いクロード・モネ(1840~1926)の画業を初期から晩年にいたるまで5章に分けて紹介します。

出品点数:油彩画54点、関連資料12点
*会期中、一部展示替えを行います。

第3章

地中海との出会い

第7回印象派展(1882年)を最後に、モネは印象派のグループから離れていきます。新たな色彩表現の可能性を探求するきっかけとなった、モネの地中海沿岸の明るい光と風景との出会いを紹介します。

第1章

画家の出発

本格的に油彩画を学ぶ
ンに出品を試みる時代
モネの出発点を振り返

第4章

家族へのまな

膨大な数の風景画の台
どめてきた家族の姿
から後期にかけての作
モネの人生そのものを



1 ルエルの眺め 1858年 株式会社丸沼倉庫



2 冬のヴェットゥイユ 1879年 フリック・コレクション
©The Frick Collection, New York



3 庭師の家、アンティープ 1888年 クリーヴランド美術館
©The Cleveland Museum of Art, 2001, Gift of Mr. and Mrs. J. H. Wade, 1916, 1044

第2章

印象派の登場

1874年のグループ展開催以来、「印象派」の名前が広がっていきます。サロンの趣味の絵画と決別してゆくモネの新たな展開と発展をたどります。

第5章

連作の時代

〈ボプラ並木〉、〈ルーアン大聖堂〉などに代表される有名な「連作」を紹介し、最後に、晩年のモネがたどり着いた境地を連作〈睡蓮〉で振り返ります。

はじめたモネが、サロンの作品を紹介。ります。

ざし

間に、モネが描きとを紹介します。初期風の変遷とともに、浮き彫りにします。



4 春の果樹園 1886年 ジョセフ・ウィルフ夫妻
Mr. and Mrs. Joseph Will, New York



5 睡蓮 1907年 個人蔵、日本

■ワークショップ

「モネの手 モネの眼 モネの部屋」

モネがそうしたように自然に触れ(モネの手)、自然を詳しく観察(モネの眼)してみましょう。参加者には自然の中を歩いて拾い集めたものをつかって、標本のようなものを制作していただきます。ワークショップの終わりには、参加者が作りあげたものを用いて、講座室内にインスタレーション(モネの部屋)を試みます。

ディレクター=河野通孝(山口県立美術館専門研究員)

サポーター=宮藤裕二・ボランティアスタッフ

みやその・ゆうじ:1975年福岡県生まれ。山口大学大学院教育学研究科美術教育専修修了。大学院在学中より、子供たちが地域の住民たちとともに自然に接するためのワークショップを開催。現在も中学校の美術教師を勤めながら、子供たちが美術を通して自然に触れる機会を生み出す活動を続けている。

参加対象=子どもから大人まで(小学生以下は保護者同伴が望ましい)

参加人数=20名程度

日時=7月14日・7月28日・8月4日・8月18日・9月22日(いずれも土曜日)

午後1時から4時30分

場所=山口県立美術館講座室および美術館周辺

参加料=500円

用意するもの=特になし。よこれても良い、歩きやすい服装でご参加ください。

応募方法=往復ハガキに、氏名・住所・連絡先電話番号・年齢(学年)・参加希望日(第3希望まで)を記入して、下記宛へお申し込みください。先着順で定員にいたり次第、締め切らせていただきます。なお、人数に余裕があれば当日の飛び入り参加も可能です。

申し込みおよび問い合わせ先

山口県立美術館「モネ展ワークショップ係」

〒753-0089 山口市亀山町3-1 TEL083-925-7788

2001-2002

schedule

山口県立美術館 平成13年度年間スケジュール

常設展

4/17

生誕90年記念 香月泰男
「シベリア・シリーズ」全作品展

6/10

10/23

雪舟
11/4

柳沢信

小林和作

12/9

現代の萩焼

12/11

シベリア・シリーズ I

中平卓馬

11/5

11/17

松田正平

2/5

荒木経惟

古萩と置物

2/24

シベリア・シリーズ II

山口の
仏教美術
から

2/26

牛腸茂雄

4/7

Information

■休館日

毎週月曜および年末年始(12月28日～1月3日)
ただし、4月30日(月)、12月24日(月)、1月14日(月)
は開館、12月25日(火)、1月15日(火)は休館
「モネ展」会期中は無休

■開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)
「モネ展」会期中は9:00～18:00(入館は17:30まで)

■料金

常設展：一般190(160)円 学生120(100)円
()内は20名以上の団体料金
特別展：別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等
学校、盲・聾・養護学校に在学する方は無料。
教育文化週間11月1日～11月7日は全ての方が無料。



特別展

4/28～6/5

ZENGA 帰ってきた禅画

-アメリカ ギッター・イエレン夫妻コレクションから-

5/29～6/10 秋吉台国際芸術村レジデンス事業
2001-2002招聘作家展

全館休館 6/11～7/4

展覧会準備のため全館休館します。

CLAUDE
MONET

7/5～9/30

クロード・モネ展

全館休館 10/1～10/22

展覧会準備のため全館休館します。

10/25～11/11 第5回やまぐち県民文化祭
第55回山口県美術展覧会

12/4～12/9 第54回学校美術展覧会

12/18～²⁰⁰²1/27

雲谷等益-寛永期の雪舟流-

2/7～2/10 山口県立大学卒業制作展

2/14～2/17 山口大学卒業制作展

2/21～2/24 山口芸術短期大学卒業制作展

3/5～3/10 二紀展